

補習校だより

2020年4月24日発行



新緑が眩しく、春らしい陽気となりました。外出の機会がめっきりと減ってしまいましたが、ベランダに出れば日差しは暖かく、木々は日に日に青々として美しく小鳥のさえずりが聞こえてきます。

2020年2月20日(エスファンド月の始め)より、コロナ感染予防のために補習校の休校が続いています。残念ながらイランの新年が明けた後もお互いに顔を合わせることができませんでした。イラン全体の休校措置を受けて西暦5月7日(オルディベヘシト月18日)に予定していた今年度補習校修了式も中止にいたしました。

2019年度はこの様な形で補習校の修了となりましたが、2020年度は再び秋から開校できることを期待しています。皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

補習校第一期生からのお便り

今年度で開校10周年となった補習校ですが、一期生の多くが現在、日本で暮らしています。先日そのうちの一人、吉田莉々さんよりテヘラン日本語補習校へ、嬉しいお便りが届きました。その内容を一部抜粋してご紹介します。

.....
Eide Nowruz Mobarak!

お祝いの季節ですが、イランもコロナで大変だとニュースで聞いています。状況のほど、大丈夫ですか？
補習校の皆さんが健康であることを願っています。

この度、高校を卒業し、東京大学文科Ⅲ類に合格したことを報告するため、久しぶりにメールを送らせていただきました。

私のなかでテヘラン日本語補習校で学んだことや出会った仲間はかけがえのない宝です。大学では、イランと日本という2つの全く異なる文化の中で暮らした経験を生かし、見地を深めるために、さらに勉学に励みたいと思っています。

日本での大学進学を視野にいれている補習校の生徒さんがいて、力になれることがあったら、いつでも言ってください！

またイランに行って補習校のみんなに会える日が来るといいです。
.....

以上が吉田さんからのメールになりますが、なんと東大合格の報告でした！
幼少期から小学6年生の夏までイランで過ごし、補習校で学んだ吉田さんが、一体どの様に日本語を習得し、日本での受験を乗り越えて晴れて東大合格できたのか気になりますよね。

そこで補習校で質問を募り、当時の補習校立ち上げメンバーでもあり教員をされていたお母様の吉田菜々さんご本人の莉々さんへ質問してみました。イラン在住当時、莉々さんはインターナショナルスクールへ通い、英語の日常会話ができる菜々さんが宿題などをみていたそうです。

✿まずは莉々さんへの質問です。補習校生も日本での就学を視野に入れている人と、そうではない人がいるので、まずはどちらにも共通する質問内容です。

①ハーフの子として将来の為に、今からやっておいた方が良いことはありますか。

→まず一番重要なのは、学校での勉強を怠らないことです。イランでも日本でも、きっと世界中のどこでも、学ぶことの基本事項は変わりません。語学の勉強も大事だと思います。ハーフであることの最大の利点は、最初から二つの言語を母語として学んでいけるところにあると思います。ペルシャ語と日本語は文法構造も違って最初は大変かもしれませんが、子供の時の頑張りが必ず活きる時がきます！皆さん頑張ってください♪

②常に意識していることは何かありますか。

→目の前のことを全力で楽しむことです！補習校は、日本語を学びながらたくさんの友達ができる素晴らしい環境です。1回1回の授業は短いので、毎週しっかり学んで、しっかり楽しむことが日本語力を伸ばすポイントかなーと思います。補習校に限らず、何事もガンガンいく姿勢を持つことが私のモットーです！

③補習校在学当時の将来の夢と、今現在の将来の夢は何ですか？

→当時は NASA で働いて宇宙の研究をしたいと思っていました。今は中東情勢や国際関係を学んで国際連合で働きたいと思っています。

④勉強時間はどれくらいですか？

→高二までは授業とテスト前だけです(笑)でも授業は絶対寝ない！高三は、毎日始発で学校に行って勉強していました。でも一番強調したいのは、勉強は時間じゃなくて質です！！！！しっかりと集中力を保てるように、早いうちから自分にあった勉強法を見つけて下さい♪

⑤勉強するモチベーションを保つ方法がありますか？

→ちょいちょい息抜きをすることです。私の場合は、友達とお喋りしたりするのが楽しかったですね。保てない時は、いっそやらないのも全然あります！

⑥二つ以上の言語を勉強して、大変だったことと良かったことを教えてください。

日本へ帰国してから時間が経ちましたが、現在は日本語中心の生活でしょうか。

ペルシャ語や英語を維持する為の機会はありましたか？

→私の場合は、(イランでインターナショナルスクールだったため)ペルシャ語を喋る機会が少なかったのので、「勉強」という形でペルシャ語に取り組まなければいけなかったのが大変でした。日本語と英語は生活の中で使っていたので、気づいたらどっちも普通に喋れる感じでした。バイリンガルだと、あらゆる選択肢が一気に広がります。しかし、自分でも非常に悔しいのですが、今ではペルシャ語はかなり忘れていきます、、(泣)やっぱり、日常生活でたくさん使うことが一番重要なのだなと実感しています。どうかみなさんは二つ、それか三つの言語を継続的に使い続けてバイリンガル、トリリンガルになって下さい。

✿次はお二人への質問です。

⑦日本へ莉々さんが小学生高学年の年に帰国された...とお聞きしました。

補習校では国語のみの学習でしたが、それ以外の教科は語彙力などの点で理解できましたか。

(莉々さん、以下莉) 最初は分からない言葉もありましたが、住んでいればすぐ慣れます！子供の頭はけっこう柔らかいです(笑)

(菜々さん、以下菜) イラン在住中は、昼間はインターナショナルスクール、週末は日本語補習校、そしてペルシャ語と結構忙しかったのでそんなにたくさんの教科を日本語で教えるはしませんでした。国語の

外に算数は日本の教科書での勉強とひっ算や掛け算九九などは日本語でしっかりやらせていたと思います。

将来、日本に帰ることが決まっていたので、算数の基礎は日本的なやり方がいいと思いました。

あとは、娘は小学生の頃は事典系の本が好きだったのでそこから社会や地理的な知識は得ていたと思います。

理科は全くやっていませんでした。

日本へ帰国後、公立小学校の6年生に転入しましたが、それほどどの教科でも困ったということはありません。日本語の基礎がしっかりできていれば生活や授業の中から自然に覚えていくのだと思います。

⑧日本への帰国、生活習慣などの違いや勉強の事、大変だった事はどんな事でしょう。また、莉々さんへどのようなサポートをされていたのでしょうか。

(莉) 正直に言うと、あんまり大変だなと思ったことはありません。あんまり苦と思わずに、ひとつひとつの変化を楽しみながら慣れるのが大事かなと思います。

(菜) 毎年夏には日本へ里帰りし、小学校にも入れてもらっていたのでそんなに大きなカルチャーショックはありませんでしたが、帰国時、小学六年生の6月だったので今思えば友達関係は少し大変だったかも知れません。

サポートとは少し違うかもしれませんが、中学校は私立の中高一貫校に入れたかったので、学校の資料集め、見学、学校の決定などは私主導でイランにいる頃から進めていきました。結果的にとてもいい決断でした。

はじめ、中高一貫校を選んだのは英語力の維持が主な理由でしたが、それ以外にも入ってみるといいことが沢山ありました。具体的には帰国生が各学年に一定数いることで、帰国生への偏見が少ない。また英語力の維持発展に積極的。6年間を通して大学までの計画が立てられるので、高校3年生の6月ころまでは学校生活をしっかり楽しみ、受験に切り替えて臨む事が出来たと思います。

⑨習い事や続けている事はありますか。

(莉) 高校で始めたチアは、大学でも続けようかなと思っています。塾や予備校、その他勉強系の習い事に通ったことはありません。

(菜) 習い事は小学生の頃はイランでもやっていた水泳を続けていましたが、中学に入ると同時に辞めて学校の部活に入りました。

⑩どのくらい勉強に時間を使い、集中力を保てるのでしょうか。

(莉) 受験期は基本的にずっと勉強していました。(平日は授業除いて5時間、休日は10-11時間くらい)でもずっとやり続けるのは理論的に不可能なので、東大の試験時間などに合わせてやっていました。

(菜) 大学受験期に入るまでは試験前くらいしか勉強は集中的にはしていません。ただ娘の性格的に宿題や課題はしっかりこなし、授業中に寝ているようなこともなかったと思います。受験を意識した高校2年生の冬頃からは部活が終わった後、7時過ぎから学校の自習室で最終下校の8時半まで自習し、帰宅していました。これを部活引退までほとんど毎日続けていたと思います。部活引退後は朝7時くらいから学校の自習室で自習し、放課後も最終下校まで自習するというのを受験が終わるまで続けました。

中学生以降は娘の勉強は全く見ていないのでどのくらい集中力が続くのかは分かりませんが、小学生だったらそんなに長い時間、集中力は続かないと思います。それが普通だと思います。

⑪本を読む事は好きですか。国語力のアップに繋がっているのでしょうか。

(莉) 読書は好きです。しかし、ここまで書いておいて言うのもアレですが、国語はめっちゃ苦手です(;_:)

(菜) 読書は家族全員好きです。娘は英語、日本語、両方で読書しています。やはり読書をする子の方が国語力、読解力はあるような気がします。年齢が上がってくるとどの教科でも論術形式で回答を求められることも多いので、国語力はあった方が断然有利です。読む本はどんなジャンルでもいいと思うので、活字や文章に触れる機会や習慣はあった方がいいと思います。

⑫今、イランへの関心や興味はありますか。

(莉) イランのニュースは追うようにしています。イラン人であることに誇りを持っていますし、国自体も大好きです。将来は、イラン人というルーツを生かして、中東情勢をフォーカスして専攻も決めたいなと思っています。

(菜) 日本に帰って来てから娘とイランにいた頃の思い出話をよくします。娘は自分のアイデンティティに触れる機会があって本当に良かったと言っています。私にとってもいい経験でした。日本で生活して行く上でとても難しいのはペルシャ語の維持、発展です。旦那さんがご家庭でペルシャ語しか話さない、もしくは兄弟間ではペルシャ語で話す、またある程度の年齢まで(小学校卒業以上)イランで過ごしペルシャ語の基礎基本がしっかり身についている場合以外はペルシャ語を維持したり、上達させていくのはとても難しいです。娘はイランでペルシャ語の日常会話、4, 5年生程度の国語は出来ていましたが、日本へ帰って来てからは何もしなかった結果、今は会話を理解する(全部ではない)事しかできません。発語は自然には出来ないと言っています。

✿最後に今年、具体的に帰国を考えている元補習校教員から菜々さんへの質問です。

我が家は今年の夏に日本への帰国を決めています。上の娘は中学校3年生2学期から、息子は6年生への転入になります。質問は上の娘に関してです。

半年後には高校受験になります。帰国子女枠での受験をするのですが、すべり止めの私立を受験する予定はありません。県立1本です。

帰国子女枠受験を行っている県立高校は8校ほどありますが、レベルにかなりの違いがあり、一つレベルを落とすとかなり下のレベルまで落とすことになってしまうような状態です。現在の志望校は県の中では進学校になります。

受験まで半年しかないことを教育委員会の方に話したら、帰国後の面談次第で中学2年生に落とすことも可能かもしれないと言われました。娘は致し方ないなら落とすことも考えるが、できれば自分の今の学年への転入を希望しています。

吉田さんのご経験からの客観的な意見をいただければ嬉しいです。

この夏にご帰国との事、私が分かる範囲で答えさせて頂きたいと思います。

まずは受験校についてですが、大学進学を希望しているのであればそこまで見据えて学校を選択するべきだと思います。進学校であれば学校全体の大学進学率もいいと思いますが、その分、指定校推薦などは取りづらいかもしれません。また娘さんの場合、大学受験では、帰国生受験はほぼ出来ないと思っていたほうが良いと思います。

あと、一般受験を勝ち抜いてきた子たちと一緒にレベルで授業についていけるかも大事なポイントです。1つレベルを下げた学校の場合、もし3年間成績をトップクラスで保てれば指定校推薦で1番校と同じかもっといい学校に行ける可能性があります。一方で、あまり勉強に熱心ではない生徒たちに影響されてしまう可能性も否めません。

学年を1つ下げることに限っては、日本では飛び級やダブりの制度がないので、出来れば避けたいですね。

日本へ帰国までにネットの教材や大使館で貰う教科書をフル活用して学力全体を日本のものに合わせれば帰国後にスムーズに中3に入れると思います。また少し早めに帰国できれば塾などに通うのもいいと思います。

また奥の手としては外国人として外国人枠での受験をすることもできると思います。自治体によって制度が異なるので県の教育委員会にそのような制度のある県立高校はあるか問い合わせるのもいいかと思います。

ご希望には外れる回答になりますが、私立高校も是非見てみるといいと思います。やはり県立1校ではリスクが高いと思います。帰国生歓迎の私立高校は多いですし、今授業料の補助などもあるので授業料だけで言えば県立高校とそう変わりはないと思います。ただそれ以外の費用はかかります。また私立高校であれば県外の高校へも通う事が出来ます。英検など、上の級を持っていたり、成績次第では特待生になれる場合もありますので可能性として、下調べはしておくべきだと思います。

学校はそれぞれ校風が違うので帰国した際には候補の学校は通学時間、経路も合わせて全て実際に行ってみるといいですよ。とてもいい学校でも片道2時間の学校には物理的に通えないと思います。また見学してみて校風が合う、合わないもあると思います。帰国生受験以外の選択肢も出てくるかもしれません。

娘さんの高校受験まで時間が沢山あるとは言えませんが、まだ半年以上あるとも言えます。まずはしっかり情報を集め、第一プラン、第二プラン、第三プランくらいまで考えておくといいと思います。帰国後に編入予定の中学校が決まっていれば連絡を取って中学三年生の授業の進捗状況や受験相談などもしていいと思います。今、世界中が新型コロナウィルスで活動停止状態ですが、逆に言えば日本語補修のチャンスでもあります。また念には念を入れて夏に帰れなかった場合の事も想定しておいた方がいいと思います。

.....
ここまでがお二人へのインタビューでした。
ここからは菜々さんから補習校の皆さんへメッセージです。

最後に、私たちがイランで暮らしていたことは、かけがえのない素晴らしい思い出であり、娘の勉学への姿勢や将来の希望に強く結びついていると思います。もともと日本語補習校に通わせている保護者の皆さんは日本語習得に積極的で意識の高い人たちだとも言えます。将来少しでも日本に帰国する可能性があるのであれば日本語の習得はもちろん、日々アンテナを張り情報収集することがとても大切です。そして欲を言えば英語もしっかりやっておくことを強くお勧めします。

娘も私もイランで日本語補習校に通っていたことをとても誇りに思っています。今でも開校したばかりの頃の補習校の話をすることがあります。そのような素敵な場を保護者の皆さんだけで始め運営し、今でも続けていることは奇跡のようだと思います。何か私や娘にお手伝いできることがあれば何時でも言って下さい。これからも補習校が末永く続く事を祈っています。



あらためて補習校より莉々さんへお祝い申し上げます。
インタビューへのご協力ありがとうございました。

さて、インタビューを読んでいかがでしたでしょうか。
印象に残ったことや、なるほどと思ったことはありましたか？

莉々さんが答えてくれた《大切なことは普段の勉強を怠らないこと、勉強時間の長さではなく質、大きな夢を持って常に全力で楽しむこと》どれも素晴らしい習慣ですね。
また《ハーフであることは、二つの言語を同時に母語として習得できるという利点があり、バイリンガルだとあらゆる選択肢が一気に広がること。それらを維持するために継続して使い続けるのが大切だということ。》それから、家族が早い時期から将来、日本で就学することを見据えて、計画的に準備をすることも非常に大事なことです。

もちろんハーフのお子さんがいるからと言っても、皆さんのご家庭の環境は同じではないですし、お子さんの性格や目指す目標もまた様々です。しかし、今の自分たちと比べて何が違い、自分たちには何が必要なのか考えるきっかけになれば幸いです。

先日、私が長谷川先生より紹介していただいた、朝日新聞デジタルの耕論『国語を学ぶ』という記事がありました。そこでは現代っ子の活字離れによる国語力の低下、そして国語力がないと勉強だけではなく、就職や仕事で困る場面がでてくると指摘していました。しかし学ぶ機会があれば、解決できることも多いとしています。

国語力の基礎は、文章を「読む」というインプットだそうです。インプットが少ないと、アウトプットのレパートリーが減ってしまう、つまり「文章はこういうものだ」というレパートリーが自分になれば文章も書けるという事です。

また最近「読解力」として訳される英語の「リーディングリテラシー」とは、日本語教育で行う「書き手の意図を読み取る」ことを行った上で、自由に自分の意見を述べ、次の行動に結びつけることを指すそうです。

グローバル時代に生き残れる人材として、自分の考えを論理的に伝える力を養うことが大切なのです。

この記事から、補習校でふだん勉強している基本的な内容《音読、読解、それらを元に自分なりの作文を書くこと》がいかに大切なかが分かります。またペルシャ語での勉強にも、このことは当てはまります。

《音読、読解、作文》の重要性を理解することは、「子どもが何で勉強しなくてはいけないのか？ 親は何で勉強させるのか？ 勉強させると何ができるようになるのか。」という疑問に対して目的意識がはっきりして、勉強するモチベーションが上がります。今、「学校や補習校が休みなのに、なぜ勉強しなくてはいけないの？」と思っているお子さんは、きっと多いはずですよ。

今期の補習校は残念ながら中途半端に終わってしまい、現地校のオンライン授業が修了した後は、長い夏休みに入ってしまうんです。だからこそ、あらためて何故国語を勉強するのかを思い出し、長い夏休みで家庭学習に励んでほしいというのが教員からの願いです。

コロナウイルスの流行で、私たちは生まれて初めて長い間、学校がなく、外出もできない状況を経験しています。当たり前だったことができなくなり、心配事も多いです。しかし、以前の時間に追われて忙しかった時より、家庭で家族と向き合って過ごせる時間が増えたのも事実です。自分と向き合う時間も増えました。いつか忙しくない時にやってみたくて後回しにしてきた事ができるチャンスもあります。極端な言い方ですが、働き方改革や勉強の仕方改革、そして生き方改革が、今だからこそできるのです。



どうぞ皆さま健康管理に気を付けて、心身ともに大切にしてお過ごしください。
そしてまた皆で元気に再会できる日を楽しみに待ちましょう。